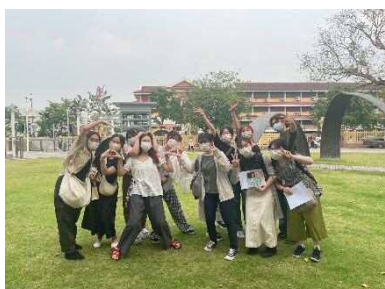


キングモンクット工科大学 Spring English Camp Program 活動報告書

外国語学部英米学科 1 年（参加時）

今回、3/6 から 3/17 までの短期プログラムに参加させていただきました。短期とはいえ、1 週間以上海外に滞在するのは初めてで、渡航前は期待よりも不安の方がはるかに上回っていました。しかし、実際タイに到着するとキングモンクット工科大学のバディの皆さんが素敵な笑顔で私たちを歓迎してくれました。空港から一步外に出ると暖かな風が吹き、南国にきたという事を肌で感じる事ができました。

この約 2 週間の研修中、ほとんど毎日 1 日中授業がありました。英語の授業やプレゼンテーションの授業など、中でも私が 1 番好きだったのがタイの文化を学ぶ授業です。タイの文化は日本ではあまり身近で感じる事が無いため、この授業で学んだことは私にとって新鮮なことばかりでした。『日本とタイの相違点を挙げてみてください』と聞かれた時に、私が「日本には四季があるがタイは一年中夏です。」と答えると、先生から「タイにも季節は 3 種類あります。hot/hotter/super-hot !!」と言われました（笑）。ユニークな先生にタイの文化を教えていただき、タイがより好きになりました。



この研修でバディ達と毎日過ごす中で、日本語を本気で学んでいるバディ達の姿を見てきました。また、あまり得意ではないと言いつつも高い語彙力を持ち合わせて英語を話す彼らを見て、私ももっと英語力を伸ばさねばと改めて感じました。彼らのように自信がなくてもとにかく言う精神を私も強く持ち続け、次また会う日までに驚くほど成長した姿を見せることを目標に頑張ります。



3 月 10 日と 11 日はバディ達と一緒に美術館・博物館巡りや、アユタヤ観光に行きました。バンコク国立博物館では、文化遺産や伝統工芸品、宗教美術品などなど美しいものばかりでした。日本とは違うタイの歴史、美術品の数々を見て回るのに時間が足りませんでした。一緒についてきてくれたタイのバディや大学の先生から説明をしてもらいながら見てまわり、自分たちだけで見て回るよりも楽しむ事ができました。アユタヤ観光では、寺院遺跡巡り、初めての象乗り体験もしました。私自身仏教徒ではないため、寺院に行く事自体私の記憶上初めてのことでワクワクが止まらなかったです。気温が高く日差しも強かったため私含めみんなヘトヘトになりながらの観光でしたが、興味深い心に残

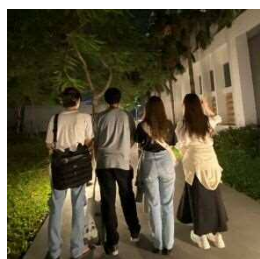


る観光になりました。ゾウ乗りも初めて経験しました。多少の恐怖心はありながらも、体感20分弱という長い間ゾウに乗りとてもいい経験になりました。とても可愛らしいゾウに、重いのに乗せてくれてありがとうと何度も声をかけました。

12日、日曜日はフリーデーだったため1人のバディの子と、日本人6人で1日過ごしました。バディの子が1日のプランを考えてくれて、様々な場所に連れてってくれました。チャトゥチャックマーケットに行く途中電車の中で、ある日本人男性と出会い、その人とも一緒にマーケットに行くことになりました。とてもユニークな方で、旅行中に新たな人との出会いがあることも旅の醍醐味だなと感じました。素敵で完璧なプランと共にバディや日本の仲間達と楽しい1日を過ごせて幸せでした。



研修期間中、やはり1番心に残っているのはタイのバディ達との思い出です。タイのバディの皆さんは学業で忙しい中、毎日朝から夜まで私たち日本の学生のことを気にかけてくださいました。あまり自由時間がない私たちのことを気遣って、毎晩様々な場所に連れてってくれました。ナイトマーケットや、観光客に人気だと



いうキラキラ輝くショッピングモール、地元のスーパーマーケット、時には夜の大学校内をお話しながら散歩することもありました。異国間での会話のトピックは何がいいかと渡航前は悩んでいましたが、国は違えど同じ大学生なのだと感じるが多かったです。特に、恋愛についての話になると大盛り上がりで、恋をしている子が多くいてとても可愛らしかったです。たくさんの会話を通して、バディ達との仲を深める事ができ、嬉しく思っています。

2週間弱のこの研修期間中様々なことを経験しました。ハプニングもありましたが、タイのバディ達に何度も何度も救われました。バディ達には感謝の気持ちでいっぱいです。毎日毎日バディと過ごしていたため別れる時は本当に寂しかったです。またいつか必ず会おうという気持ちを込めて、「See you again! (またね!)」と何度も言い合いました。

渡航2週間前まで、未知の国だったタイをこんなにも大好きになったのは素敵なパーソナリティを持ったバディ達がいたからです。インターンシップで日本に来る子たちもいるようなので、ぜひ会いに行きたいですし、私もタイをまた訪れたいと強く思いました。また、この研修に参加した北九大生の普段関わりが無い、他学部他学科の方々と一緒に時間を共有できて楽しかったですし、新たに交友関係が広がり嬉しく思っています。この短期間で学

んだこと、経験したことは数えきれません。このような機会を与えてくださったすべての人に感謝します。ありがとうございました。

以上で、私の活動報告とさせていただきます。



キングモンクット工科大学 English Camp 体験報告

外国語学部英米学科 1 年（参加時）

キングモンクット工科大学でのプログラムを通して、様々なことを学んだ。まず、授業ではプレゼンテーションやタイの文化、タイ語について学び、英語を用いての発表やアンケート調査などを行った。授業の中で1番記憶に残っている活動は、タイの学生に英語でアンケート調査を行って発表する、という活動だ。現地で私達の活動をサポートしてくださったバディの方は英語を流暢に話せる方が多かったが、アンケートに協力してくれた学生はそうではない方も多かった。そのような状況の中でどのようにして質問を伝えるか、答えを聞き取るかを模索しながらアンケートを取ることは普段の生活ではなかなかできないことであり貴重な経験となった。また、プレゼンテーションの授業では一時間ほどでタイと日本の類似点と相違点についてのプレゼンテーションの準備を行なって発表する、という活動を行なった。普段プレゼンテーションを行う時は1週間ほど時間をかけて準備を行うため、1時間という限られた時間で学んだことを生かすつつスライドや原稿の準備を行うことは難しいことではあったが、生徒・先生の投票で結果的には全体で3位の点数をもらい、先生にも褒めていただきこれからの自信につながるいい経験となった。

放課後や休みの日はタイのバディの学生と夕飯を食べに行ったり公共機関を利用して買い物に行ったりした。一番思い出に残っていることは日曜日に日本人2人でバンコク市内を観光したことだ。普段ならタイの学生が付き添ってくれて、店員さんと会話する際に英語が通じないときはタイ語で通訳してくれたが、日本人だけで行くとそう上手くいかなかった。大学のホテルに帰る際にタクシーを利用したのだが、行き先を間違えて登録してしまい、キングモンクット工科大学の別のキャンパスに到着してしまったことがあった。その際にどうにか英語で新たな行き先を伝えようと試みたのだが上手くいかなかった。最終的には地図を見せたり Google 翻訳を利用したりして何とか大学のホテルに帰ってくることができた。間違ったキャンパスに到着したときは帰れないのではないかと思ったが、自分の母語が使えない環境であってもどうにかして意思疎通をとることができる、ということを実感した経験となった。

また、土曜日に行われたアユタヤへのフィールドトリップでは初めて象に乗った。タイへの語学研修が決まってから象に乗りたいとずっと考えていた。今回のアユタヤへのフィールドトリップで象に乗ることができ、タイらしい体験ができた。また、大学の食堂やタイの学生で行った夕飯ではタイ料理を多く食べた。ガパオライスなどタイに行く前から食





べたいと決めていたタイ料理もあったが、タイ料理は辛いものが多く、辛くないものを注文することに苦勞した。しかし、タイの学生や店員さんに辛くないものはないか英語を用いて尋ねることで辛くないタイ料理を堪能することができた。

今回のキングモンクット工科大学への語学研修を通して、自分がどんどん英語を用いて会話をすることに対して抵抗がなくなっていくのを感じた。渡航した初めの頃はタイ人の学生が英語で話しかけてくれても自分の言いたいことが

伝わらなかったらどうしよう、タイ人の学生が言っていることが理解できなかつたらどうしようと不安に感じてしまい、なかなかタイ人の学生と話すことができなかった。しかし、日本語の通じない、英語を主に話す環境に身を置くことで徐々に英語を使うことに慣れることができた。私が所属しているのは外国語学部英米学科であり、授業や先生と話すときなど他の学部の人よりは英語を使う機会が多いと思うが、実際に日本語を使わない環境に行って日常的に英語を使うことで自分の英語のスキル、特にリスニング力とスピーキング力が上昇していくのを感じた。初めは挨拶や簡単な会話しかできなかったが、最終日付近には一時間ほどタイの学生と英語で会話ができるようになった。

今回のプログラムの体験は、今後の英語スキルの上達に生かすことができると考える。日本に帰国した今、タイ人の学生と直接話すことは難しいが、帰国した今でもメッセージのやり取りが続いている人もいる。彼らとやり取りを続けることで日本にいなながらも日本語を用いないやり取りをすることができ、英語力の向上につながるのではないかと考える。また、今回のプログラムの体験は私のこれからの大学生活にも生かすことができると考える。タイ人の学生と会話をする中で、日本で将来働きたいから日本語の勉強を頑張っている、日本に渡航する予定がある、という学生がいることを学んだ。彼らは自分の明確な目標に向かって努力をしていた。一方で自分は将来の目標はまだ明確に決まっていただけではなく、将来のことにしっかり目を向けていないのではないかと感じた。来月からは2年生となり、残りの大学生活も3年を切った。タイで出会った学生のように自分の目標を明確に持って、そのための努力を続けることができる人になりたいと思った。

私は2週間のプログラム、タイの学生との交流を通して、英語力だけでなくこれからの自分の学びに対する姿勢や今後どういう風に大学生活を送りたいかなど様々な面で刺激を受けた。



帰国直後の今感じているこの気持ちを忘れずにこれからの大学生活を送っていきたい。